

2.3 鳥類調査

2.3.1 調査の概要

鳥類調査は表 2.3.1 に示す日程で実施した。

表 2.3.1 鳥類調査の実施日

春季	平成 26 年 5 月 16 日
夏季	平成 26 年 8 月 25 日
秋季	平成 26 年 9 月 24 日
冬季	平成 27 年 1 月 23 日

2.3.2 種類数

鳥類の確認種一覧表を表 2.3.2 に、確認位置を図 2.3.1 に示す。

鳥類の各季の確認種類数は、春季が 30 種、夏季が 28 種、秋季が 34 種、冬季が 42 種であった。確認個体数は、カルガモ、カワウ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ及びハシボソガラスが多かった。このうち、カワウ及びハシボソガラスは四季をとおして多く確認され、ウミネコは夏季及び秋季に、カルガモは秋季及び冬季に、ユリカモメ及びカモメは冬季に多くの個体を確認された。

なお、本業務では、鳥類の種の配列は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会、2012）に準じて整理したため、過年度の報告書と比較する場合は、目・科の分類が異なることに注意が必要である。

表 2.3.2 鳥類の確認種一覧

No.	目	科	種名	注1 渡り区分	確認状況					注2 天然	注3 希少	注4 環境省 RDB	注5 三重県 RL	注6 近畿RDB
					春季	夏季	秋季	冬季	合計					
1	カモ目	カモ科	オカヨシガモ	冬鳥				26	26					
2			ヒドリガモ	冬鳥				18	18					
3			マガモ	冬鳥			1	30	31					
4			カルガモ	留鳥	8		66	32	106					
5			オナガガモ	冬鳥			3	11	14					
6			コガモ	冬鳥			8	27	35					
7			ホシハジロ	冬鳥	4	1		59	64					
8			キンクロハジロ	冬鳥			1	12	13					
9			スズガモ	冬鳥		3		21	24					
10	カイツブリ目	カイツブリ科	カシムリカイツブリ	冬鳥				1	1					
11			ハジロカイツブリ	冬鳥				2	2					
12	ハト目	キジバト	キジバト	留鳥	3	3	2	3	11					
13	カツオドリ目	カツ科	カワウ	留鳥	39	60	45	74	218					
14	ペリカン目	サギ科	アオサギ	留鳥	4	6	20	2	32					
15			ダイサギ	留鳥	1	11	16	1	29					
16			チュウサギ	留鳥			4	1	5		NT	VU	ランク1 (夏期滞在個体群)	
17			コサギ	留鳥		5	4	1	10					
18			クロサギ	留鳥			1	1	2			NT	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
19	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	留鳥	1	1	3	1	6			VU	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
20			コチドリ	留鳥	2				2			NT	ランク3 (繁殖個体群)	
21			シロチドリ	留鳥	2		10	35	47		VU	CR[繁殖] NT[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
22			ミヤコドリ	冬鳥				44	44			NT		
23		シギ科	チュウシヤクシギ	旅鳥	4				4					
24			キアシシギ	旅鳥	9	8	2		19					
25			ソリハシシギ	旅鳥		2	2		4					
26			イソシギ	留鳥	2	4	4	2	12					
27			キョウジョシギ	旅鳥	2				2					
28			ハマシギ	冬鳥				17	17		NT			
29		カモメ科	ユリカモメ	冬鳥			2	605	607					
30			ウミネコ	留鳥	1	364	1678	35	2078				要注目種 (繁殖個体群) ^{注7}	
31			カモメ	冬鳥				178	178					
32			セグロカモメ	冬鳥			18	29	47					
33			コアジサシ	夏鳥	12				12		II	VU	CR	
34	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥		1	2	1	4			NT	NT[繁殖] VU[越冬]	
35		タカ科	トビ	留鳥		1			1				ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
36	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	留鳥		1	1		2					
37	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥		1			1		I	VU	CR[繁殖] EN[越冬]	
38	スズメ目	モズ科	モズ	留鳥			2	1	3					
39		カラス科	ハシボソガラス	留鳥	59	91	50	12	212					
40			ハシブトガラス	留鳥		1	1		2					
41		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥				2	2					
42		ヒバリ科	ヒバリ	留鳥	1	1	1	3	6					
43		ツバメ科	ツバメ	夏鳥	10	3			13					
44		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	2	1	2	2	7					
45		ムシクイ科	エゾムシクイ	夏鳥	1				1				ランク3 (夏季滞在個体群)	
46		メジロ科	メジロ	留鳥	3			17	20					
47		セッカ科	セッカ	留鳥	2	1	1		4				ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
48		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥	6		8	1	15					
49		ヒタキ科	ツグミ	冬鳥				3	3					
50			ジョウビタキ	冬鳥				1	1					
51			イソヒヨドリ	留鳥	2	2	2		6					
52		スズメ科	スズメ	留鳥	11	10	10	43	74					
53		セキレイ科	ハクセキレイ	留鳥	6	4	6	6	22					
54			セグロセキレイ	留鳥	1				1					
55			タヒバリ	冬鳥				1	1					
56		アトリ科	カワラヒワ	留鳥	13	5		13	31					
57		ホオジロ科	ホオジロ	留鳥	1	1	2	1	5					
58			アオジ	冬鳥				2	2					
59			オオジュリン	冬鳥				6	6					
60	ハト目	ハト科	カラババト(ドバト)	家禽類	4	1	1		6					
	10目	28科	60種	種数	30	28	34	42	60					
				個体数	216	593	1976	1381	4166	0種	2種	6種	9種	9種

種名および配列は「日本鳥類目録 改訂第7版 (日本鳥学会, 2012)」に準じた。

注1: 渡りの区分は以下のとおりである

(渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生態に関する調査報告書 (農林水産部林業事務所緑化推進課, 1987年3月)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した)

留鳥: 一年中見ることができる種----- 31 種
 夏鳥: 繁殖のために渡来する種----- 4 種
 冬鳥: 越冬のために渡来する種----- 20 種
 旅鳥: 春秋の渡り期に定期的に渡来する種----- 4 種
 漂鳥: 季節により小規模な渡りをする種----- 0 種
 迷鳥: 渡りのコースをはなれるなどして渡来する種----- 0 種
 家禽類: 飼鳥が逃げ出して野生化した種----- 1 種
 その他: 上記のうち複数の渡り区分を有する種----- 0 種

注2: 「文化財保護法」(1950年3月30日法律第214号・1950年8月施行)により地域を定めず天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

注3: 「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種を示す。

I: 国内希少野生動物種

II: 国際希少野生動物種

注4: 「レッドデータブック 2014, 2 鳥類」(環境省, 2014)に記載されている種及び亜種を示す。

VU: 絶滅危惧II類絶滅の危機が増大している種。

NT: 準絶滅危惧現時点では絶滅の危険性は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種。

注5: 「三重県レッドリスト (2014年度版) について」(三重県農林水産部みどり共生推進課, 2014年7月2日)に記載されている種及び亜種を示す。

CR: 絶滅危惧IA類: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

EN: 絶滅危惧IB類: IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

VU: 絶滅危惧II類: 絶滅の危機が増大している種。

NT: 準絶滅危惧 (Near Threatened): 存続が危ない種。

注6: 「近畿地区、鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発 (京都大学学術出版会、山岸智修、江崎保男、和田岳編著, 2002年)」に記載されている種を示す。

(記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した)

ランク1: 危惧の絶滅危惧。絶滅する可能性が極めて大きい。

ランク2: 絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

ランク3: 準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。

要注目種: 要注目種: ランク4と判定された種のうち、何らかの攪乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

注7: 三重県においては「越冬個体群 (ランク4)」とされている。

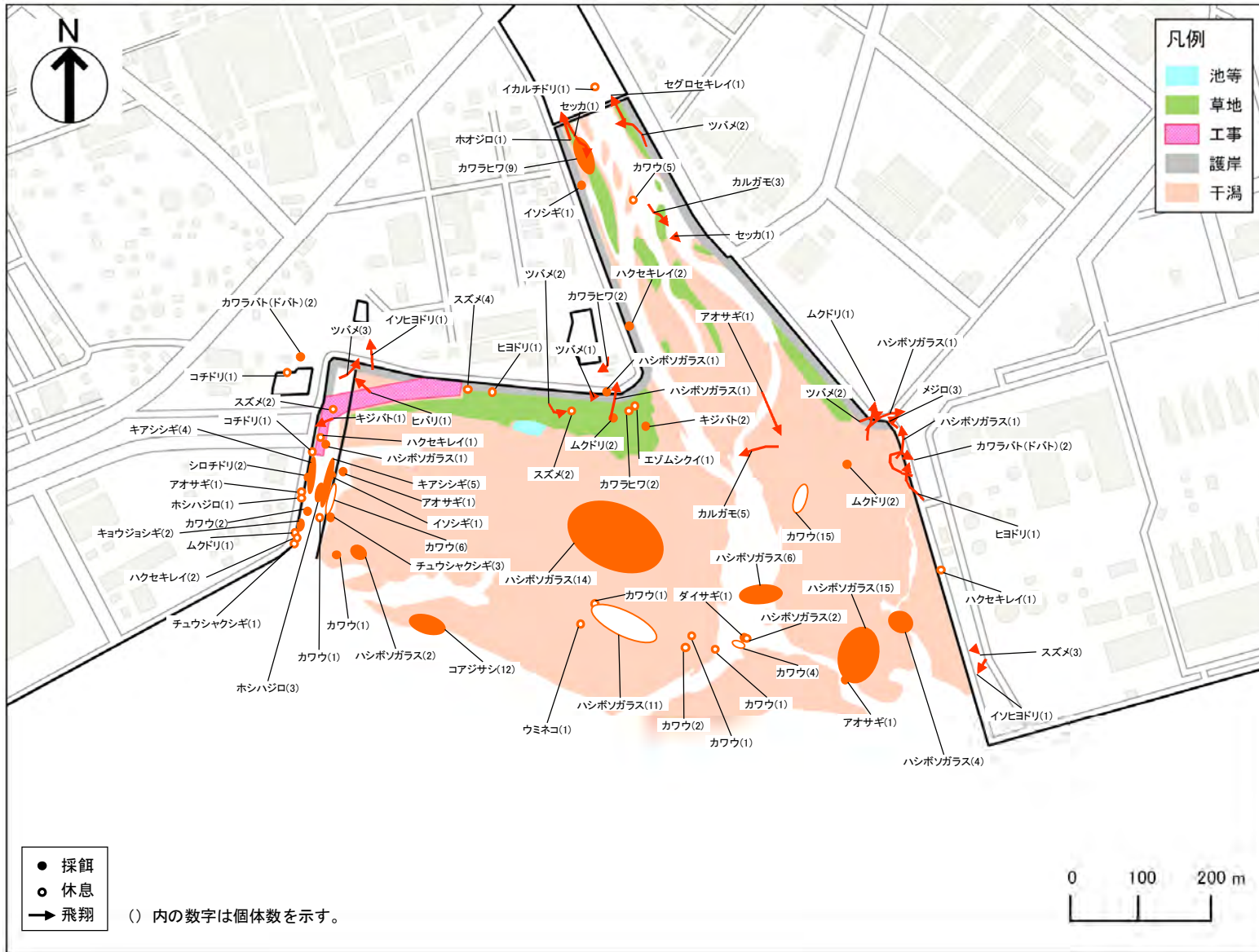


図 2.3.1(1) 鳥類確認位置 (春季)

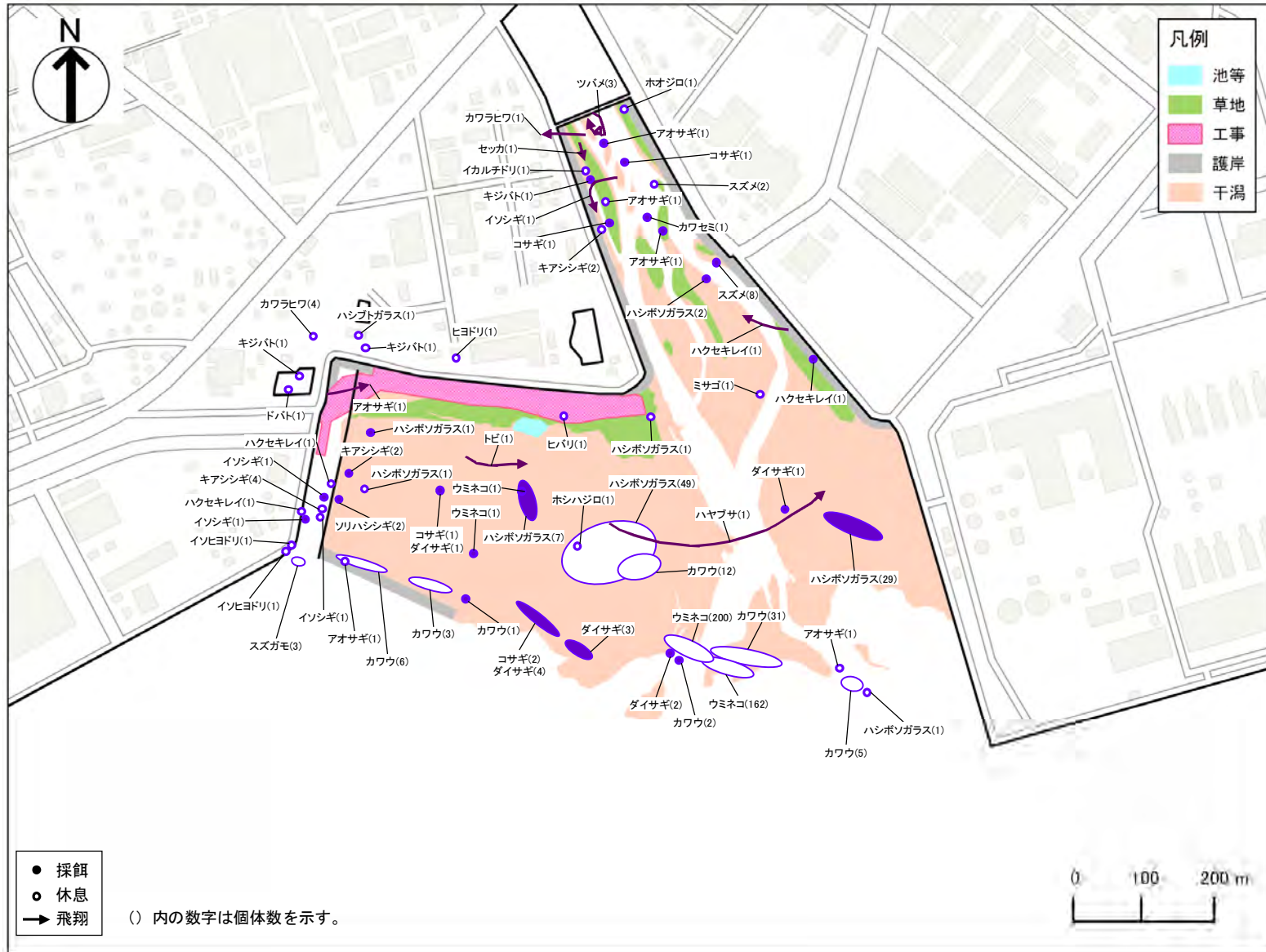


図 2.3.1(2) 鳥類確認位置 (夏季)

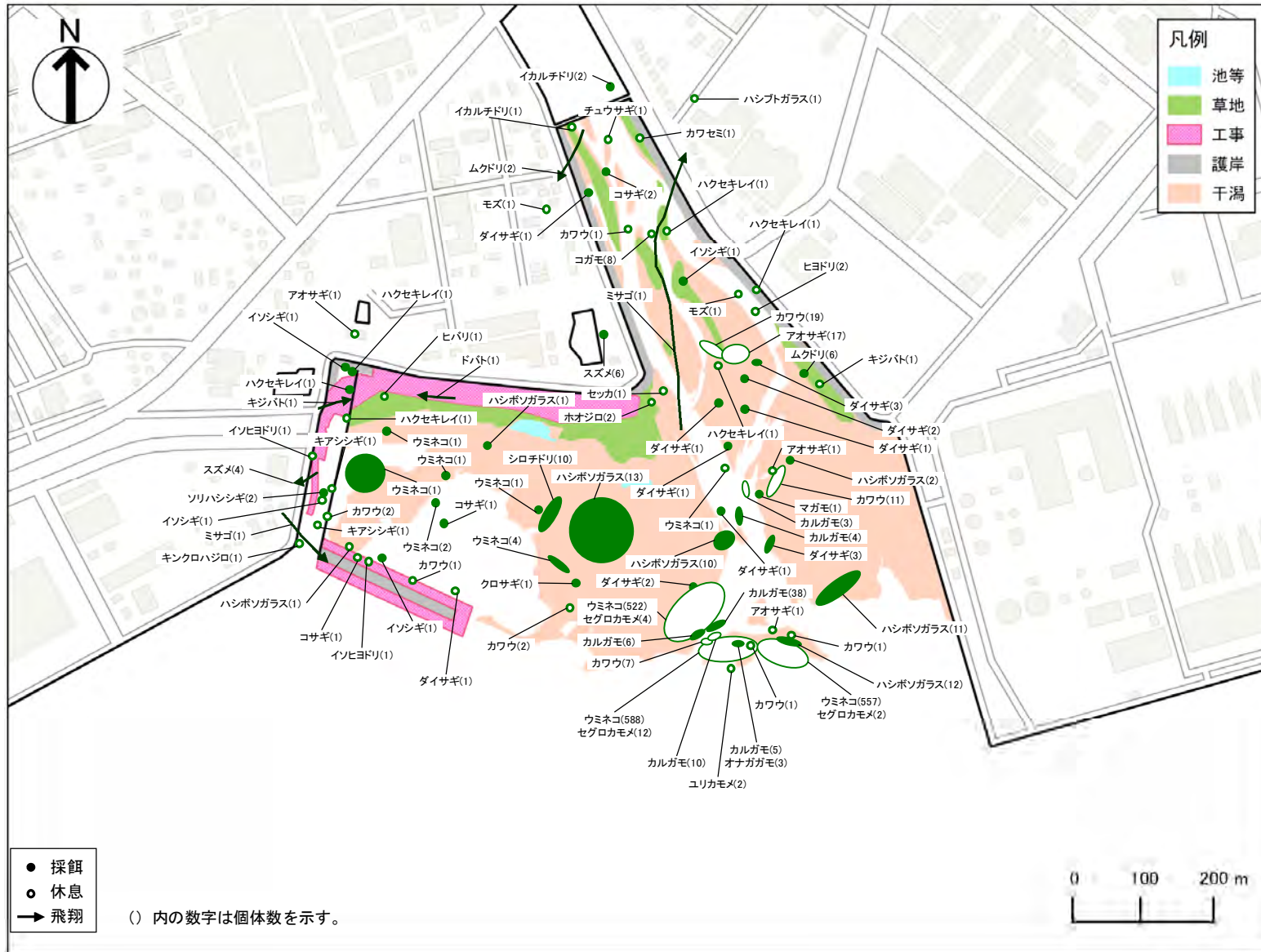


図 2.3.1(3) 鳥類確認位置 (秋季)

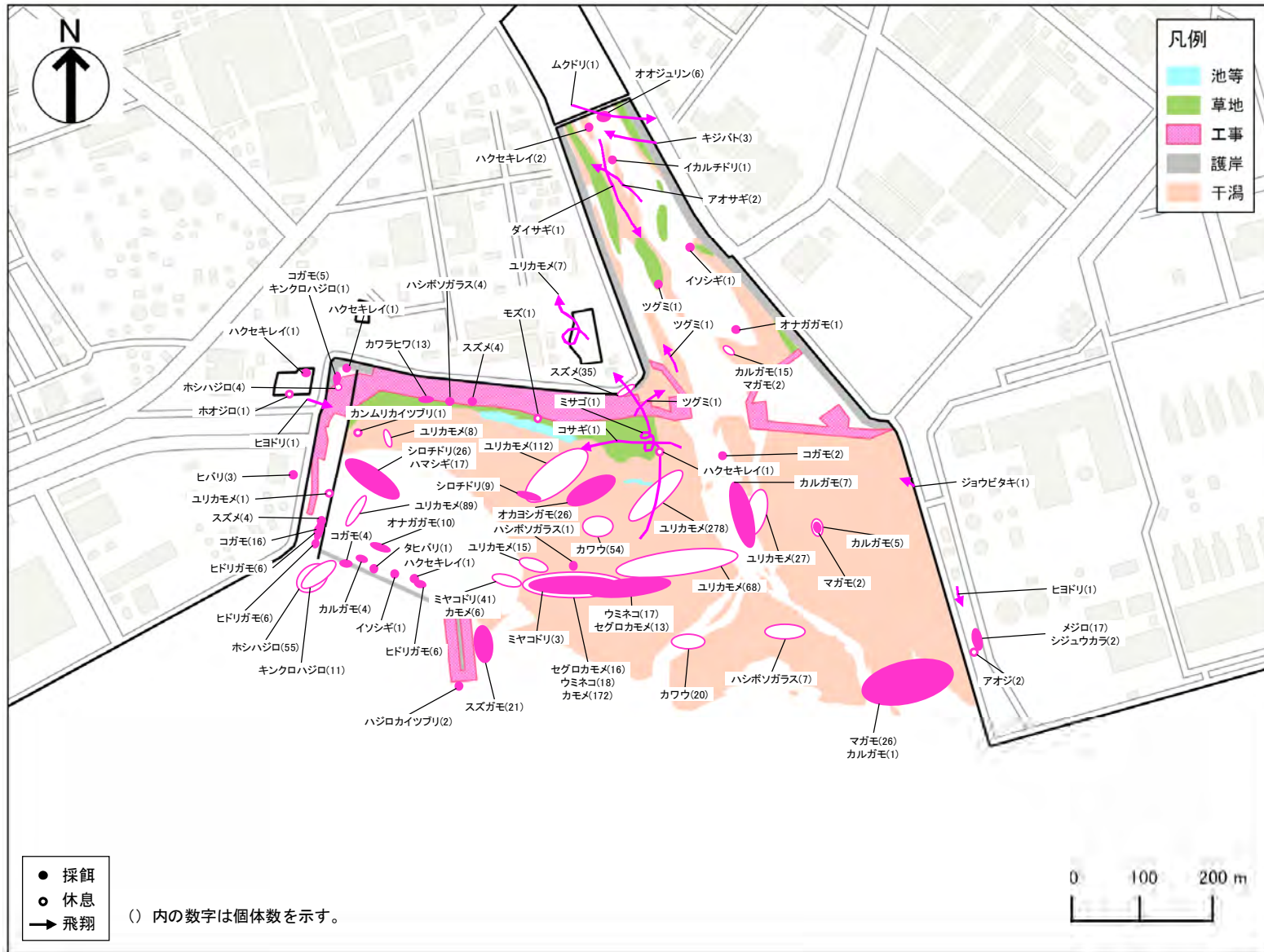


図 2.3.1(4) 鳥類確認位置 (冬季)

2.3.3 出現状況

鳥類の目別種類数及び個体数を表 2.3.3 及び図 2.3.2 に示す。

春季は 30 種 216 個体、夏季は 28 種 593 個体、秋季は 34 種 1,976 個体、冬季は 42 種 1,381 個体であり、種類数は冬季に、個体数は秋季に最も多く確認された。

目別の種類数は、四季をとおしてスズメ目 が最も多く確認された（春季 14 種、夏季 11 種、秋季 11 種、冬季 16 種）。目別の個体数は、春季はスズメ目（118 個体）、夏季、秋季及び冬季はチドリ目カモメ科（夏季 364 個体、秋季 1,698 個体、冬季 847 個体）が多く確認された。なお、春季のスズメ目はカラス科のハシボソガラス、夏季及び秋季のチドリ目カモメ科はウミネコ、冬季のチドリ目カモメ科はユリカモメの個体数が多かった。

なお、チドリ目その他の 1 種はミヤコドリである。

表 2.3.3 鳥類の目別種類数及び個体数

分類名	春季		夏季		秋季		冬季	
	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数
キジ目	0	0	0	0	0	0	0	0
カモ目	2	12	2	4	5	79	9	236
カイツブリ目	0	0	0	0	0	0	2	3
ハト目	2	7	2	4	2	3	1	3
カツオドリ目	1	39	1	60	1	45	1	74
ペリカン目	2	5	3	22	5	42	3	4
チドリ目チドリ科	3	5	1	1	2	13	2	36
チドリ目シギ科	4	17	3	14	3	8	2	19
チドリ目カモメ科	2	13	1	364	3	1,698	4	847
チドリ目その他	0	0	0	0	0	0	1	44
タカ目	0	0	2	2	1	2	1	1
ブッポウソウ目	0	0	1	1	1	1	0	0
キツキ目	0	0	0	0	0	0	0	0
ハヤブサ目	0	0	1	1	0	0	0	0
スズメ目	14	118	11	120	11	85	16	114
合計	30	216	28	593	34	1,976	42	1,381

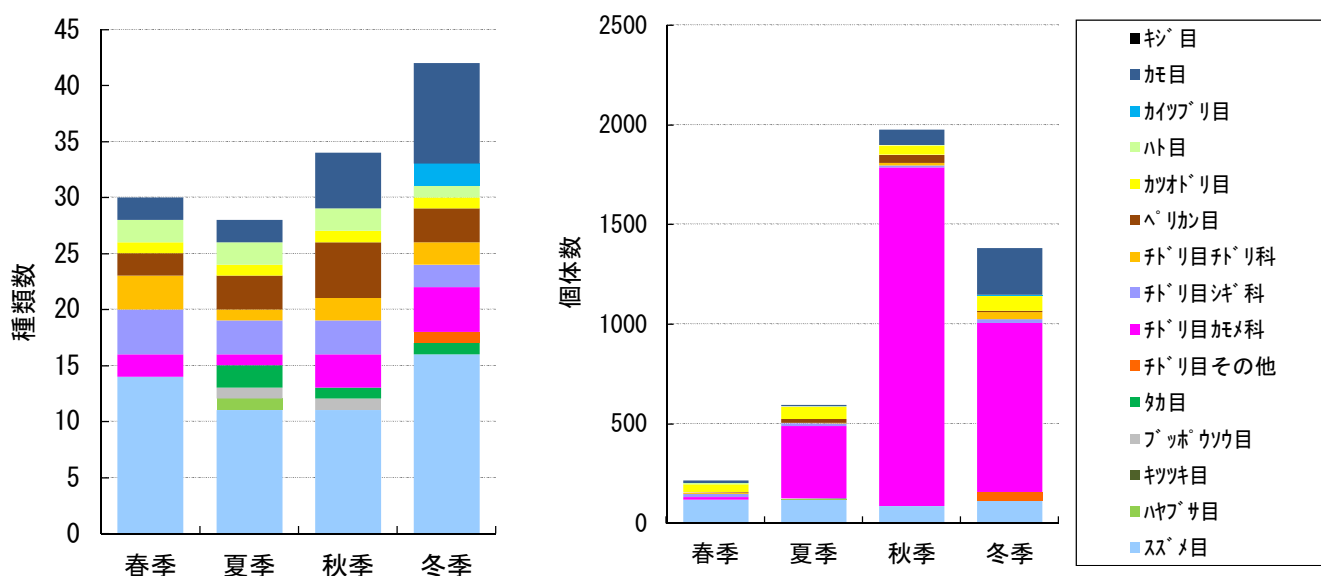


図 2.3.2 鳥類の目別種類数及び個体数

2.3.4 干潟部利用状況

干潟を利用する鳥類として、水辺に生息するカモ目、カイツブリ目、ペリカン目、チドリ目、スズメ目セキレイ科の種のほか、魚食性の猛禽類であるミサゴ、干潟を利用する多数のハシボソガラスが確認された。これらの種の干潟利用域を明らかにするため、過年度の報告書に従い、食性に着目したグルーピングを行い、表 2.3.4 に示す 8 つのグループに区分した。

各グループの出現状況を次頁以降に示す。

表 2.3.4 干潟部を利用する鳥類のグループ区分

No.	構成種等	主な食性	現地確認種 (H26)
1	カイツブリ類、 カワウ アジサシ類 ミサゴ	潜水や空中からのダイビングにより、主に魚を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・カンムリカイツブリ ・ハジロカイツブリ ・カワウ ・コアジサシ ・ミサゴ
2	サギ類	浅瀬で主に魚を食べる。 昆虫、エビ、カニ等広範。	<ul style="list-style-type: none"> ・アオサギ ・ダイサギ ・チュウサギ ・コサギ ・クロサギ
3	陸ガモ類	主に水草や藻、草の実や葉等。 その他に水生昆虫、貝やエビ等。	<ul style="list-style-type: none"> ・オカヨシガモ ・ヒドリガモ ・マガモ ・カルガモ ・ハシビロガモ ・オナガガモ ・コガモ
4	海ガモ類	潜水して貝類やカニ、水生昆虫、小魚、水草や藻等。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホシハジロ ・キンクロハジロ ・スズガモ
5	シギ・チドリ類	ゴカイ、貝、カニ、水生昆虫等干潟の小動物を食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・イカルチドリ ・コチドリ ・シロチドリ ・ミヤコドリ ・チュウシャクシギ ・キアシシギ ・ソリハシシギ ・イソシギ ・キョウジョシギ ・ハマシギ
6	カモメ類	魚類、カニ、エビ、貝、ゴカイ、草の実や海藻、死体等さまざまなものを食べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ユリカモメ ・ウミネコ ・カモメ ・セグロカモメ
7	セキレイ類	カゲロウ、ハエ、ガ等の昆虫類やクモ、イトミミズ等。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハクセキレイ ・セグロセキレイ ・タヒバリ
8	ハシボソガラス	雑食。草木の実や昆虫類などの小動物等。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハシボソガラス

1) カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴ

カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴは、朝明川河口部及び干潟汀線付近で多く確認された。

カンムリカイツブリは西側水路周辺で休息している個体がみられた。ハジロカイツブリは干潟沖で休息する個体がみられた。カワウは四季をとおして確認され、朝明川の河口及び中州、西側水路で休息している個体が多くみられた。コアジサシは干潟部沖側で採餌の様子を確認した。ミサゴは干潟上空を飛翔の様子を確認した。

表 2.3.5 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				合計
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	カンムリカイツブリ	冬鳥	0	0	0	1	1
2	ハジロカイツブリ	冬鳥	0	0	0	2	2
3	カワウ	留鳥	39	60	45	74	218
4	コアジサシ	夏鳥	12	0	0	0	12
5	ミサゴ	留鳥	0	1	2	1	4

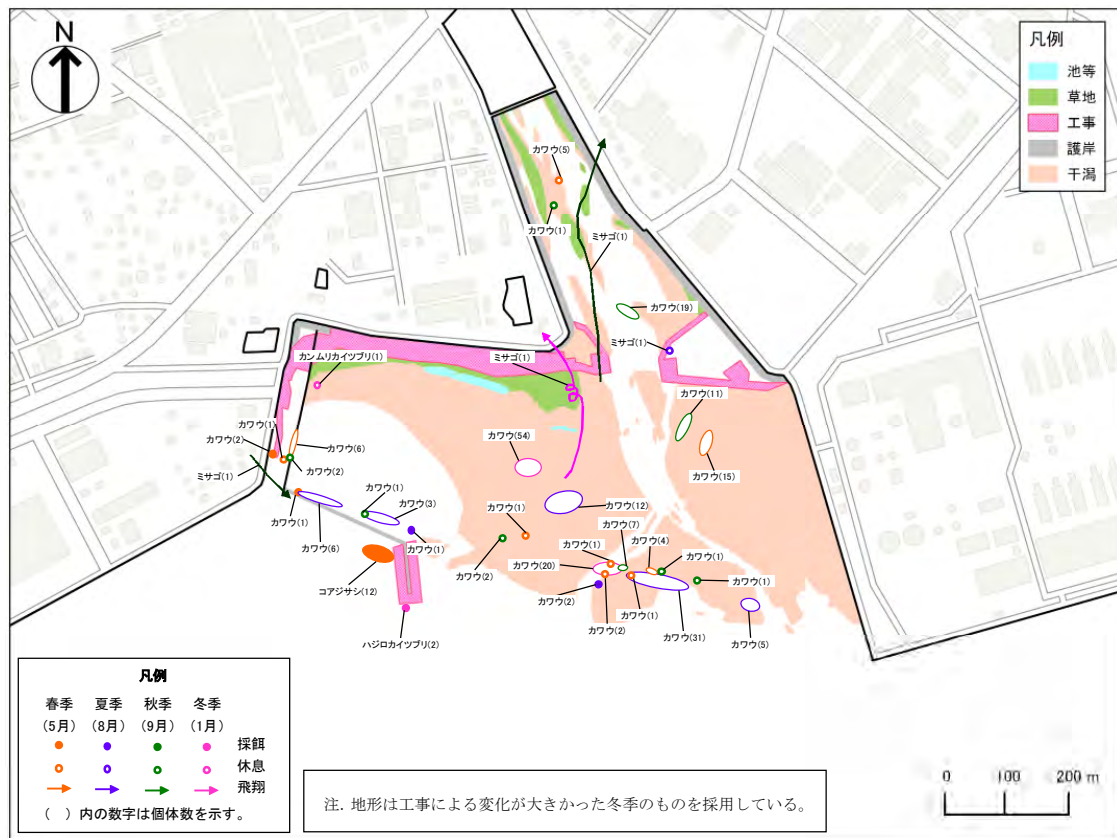
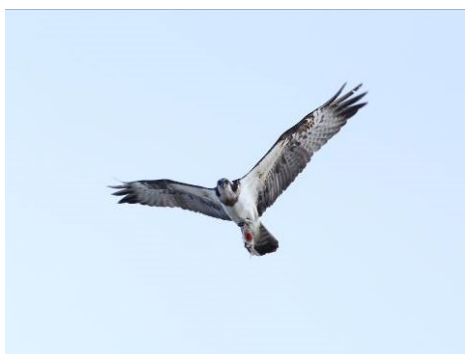


図 2.3.3 カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴの出現状況



ミサゴ (1月)



ハジロカイツブリ (1月)

2) サギ類

サギ類は朝明川の中州及び干潟部で多く確認された。

アオサギ及びダイサギは四季をとおして確認された。チュウサギは秋季に確認され、朝明川の中州で休息していた。コサギは夏季から冬季にかけて確認された。アオサギ、ダイサギ及びコサギは、干潟汀線部や朝明川の中州で採餌及び休息する様子を確認した。クロサギは秋季に干潟部で採餌している様子を確認した。

表 2.3.6 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	アオサギ	留鳥	4	6	20	2	32
2	ダイサギ	留鳥	1	11	16	1	29
3	チュウサギ	留鳥	0	0	1	0	1
4	コサギ	留鳥	0	5	4	1	10
5	クロサギ	留鳥	0	0	1	0	1

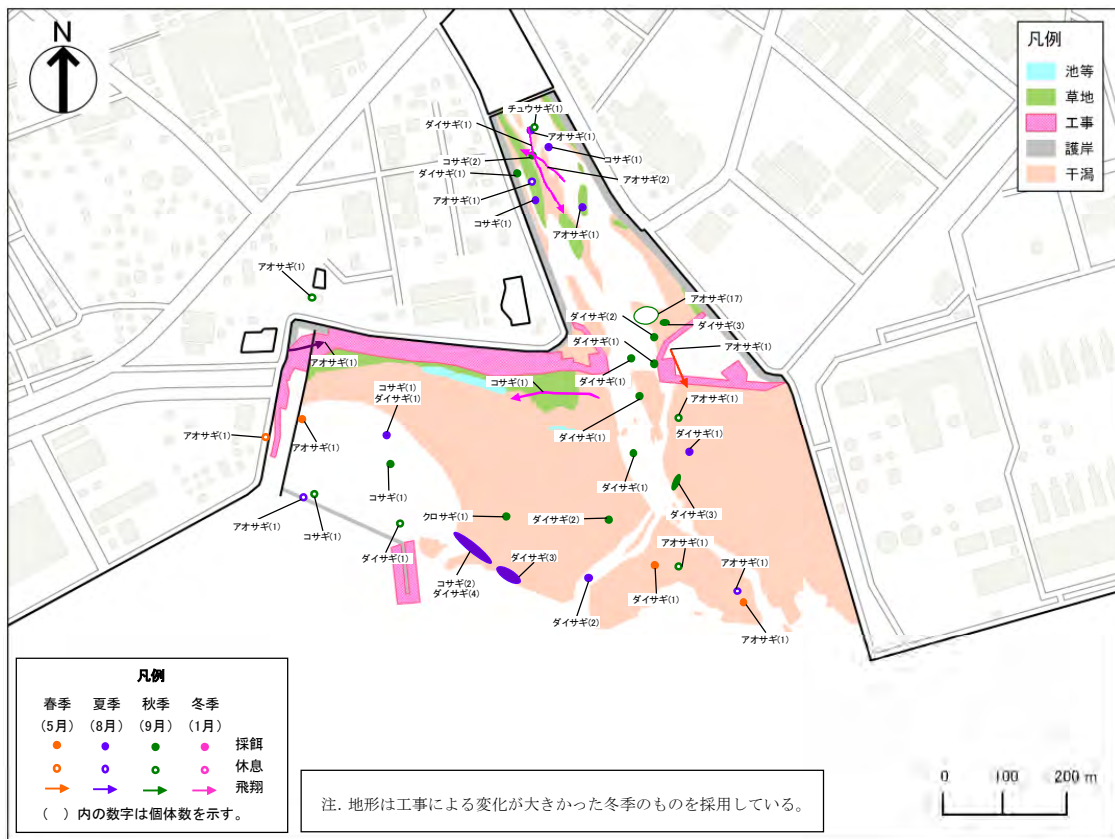
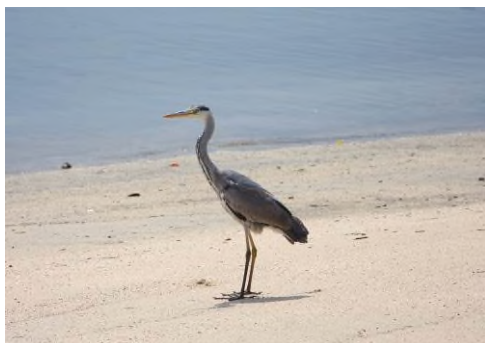


図 2.3.4 サギ類の出現状況



アオサギ (6月)



ダイサギ (9月)

3) 陸ガモ類

陸ガモ類は、カルガモが夏季以外の時季に確認され、マガモ、オナガガモ及びコガモは秋季及び冬季に、その他の種は冬季にのみ確認された。

カルガモ、オナガガモ及びマガモは朝明川河口や中州で採餌及び休息している個体が多くみられた。コガモ及びヒドリガモは西側水路で、オカヨシガモは干潟部で採餌及び休息している個体が多くみられた。

表 2.3.7 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				合計
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	オカヨシガモ	冬鳥	0	0	0	26	26
2	ヒドリガモ	冬鳥	0	0	0	18	18
3	マガモ	冬鳥	0	0	1	30	31
4	カルガモ	留鳥	8	0	66	32	106
6	オナガガモ	冬鳥	0	0	3	11	14
7	コガモ	冬鳥	0	0	8	27	35

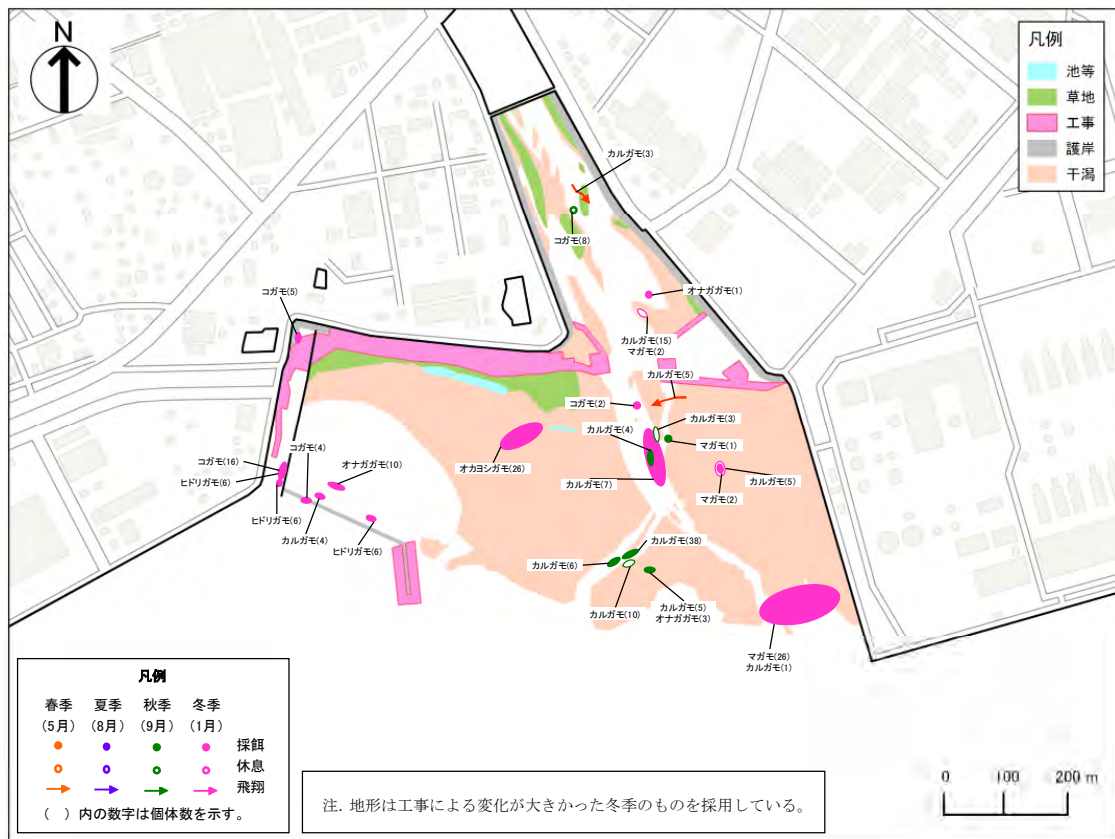
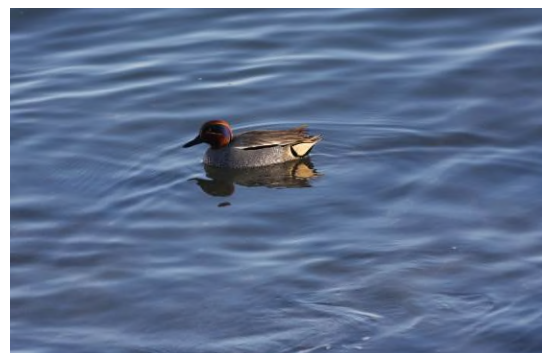


図 2.3.5 陸ガモ類の出現状況



カルガモ（9月）



コガモ（1月）

4) 海ガモ類

海ガモ類の多くの個体は、冬季に確認された。

海ガモ類の多くの個体は西側水路で採餌、休息する個体が多くみられた。また、スズガモが防砂堤付近で集団で採餌する様子が確認された。

表 2.3.8 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				合計
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	ホシハジロ	冬鳥	4	1	0	59	64
2	キンクロハジロ	冬鳥	0	0	1	12	13
3	スズガモ	冬鳥	0	3	0	21	24

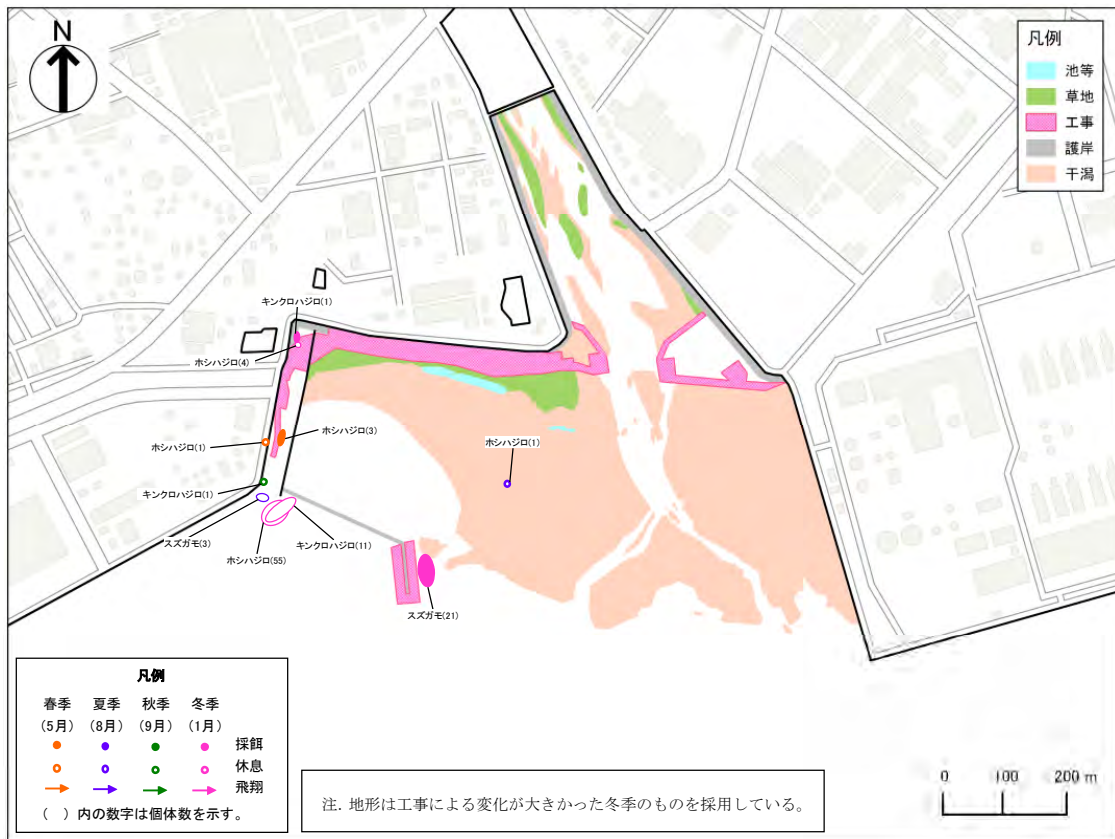


図 2.3.6 海ガモ類の出現状況



キンクロハジロ (1月)



スズガモ (1月)

5) シギ・チドリ類

シギ・チドリ類は朝明川上流部の草地や朝明川河口西側の干潟部及び西側水路周辺で採餌、休息している個体が多く確認された。

イカルチドリは朝明川上流部の草地で採餌・休息していた。コチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、ソリハシギ及びイソシギは朝明川の中州及び西側水路で採餌していた。シロチドリ、ミヤコドリ及びハマシギは干潟部で採餌していた。

表 2.3.9 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				合計
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	イカルチドリ	留鳥	1	1	3	1	6
2	コチドリ	夏鳥	2	0	0	0	2
3	シロチドリ	留鳥	2	0	10	35	47
4	ミヤコドリ	冬鳥	0	0	0	44	44
5	チュウシャクシギ	旅鳥	4	0	0	0	4
6	キアシシギ	旅鳥	9	8	2	0	19
7	ソリハシギ	旅鳥	0	2	2	0	4
8	イソシギ	留鳥	2	4	4	2	12
9	キョウジョシギ	旅鳥	2	0	0	0	2
10	ハマシギ	冬鳥	0	0	0	17	17

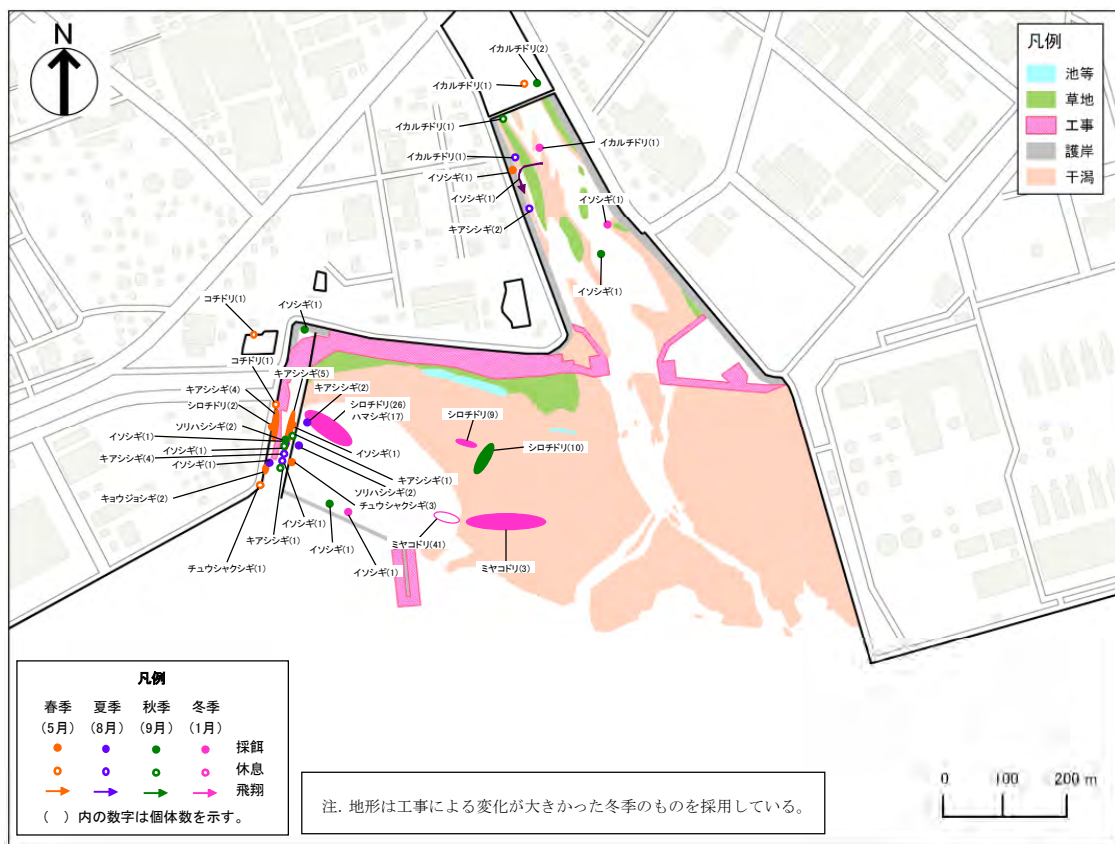


図 2.3.7 シギ・チドリ類の出現状況



チュウシャクシギ (5月)



ミヤコドリ (1月)

6) カモメ類

カモメ類は、留鳥であるウミネコが四季をとおして、その他の種は秋季及び冬季にのみ確認された。

カモメ類は、朝明川河口部及び干潟部に広く分布して確認された。朝明川河口部の水面近くで休息している個体が多く確認された。

表 2.3.10 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				合計
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	ユリカモメ	冬鳥	0	0	2	605	607
2	ウミネコ	留鳥	1	364	1678	35	2078
3	カモメ	冬鳥	0	0	0	178	178
4	セグロカモメ	冬鳥	0	0	18	29	47

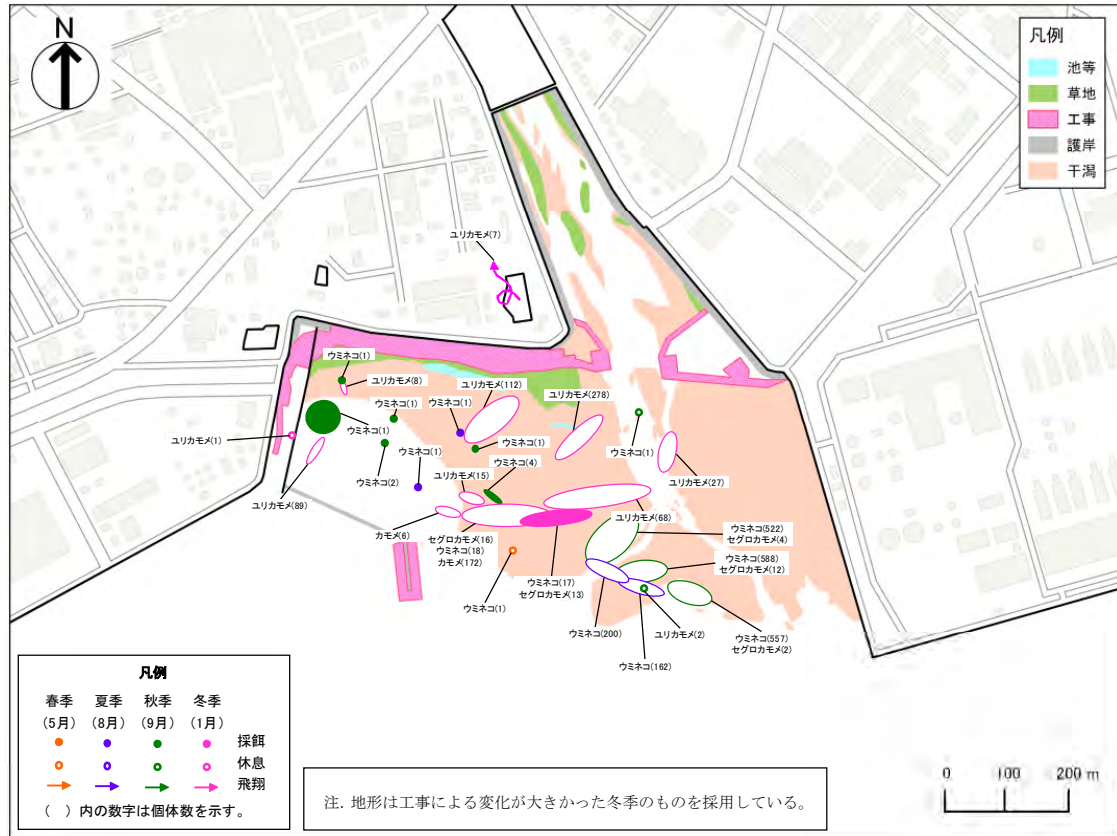


図 2.3.8 カモメ類の出現状況



ユリカモメ (1月)



ウミネコ (9月)

7) セキレイ類

セキレイ類は、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリの3種が確認され、ハクセキレイは四季をとおして、セグロセキレイは春季、タヒバリは冬季にのみ確認された。

セキレイ類は朝明川の中州、西側水路及び防砂堤周辺において、採餌や休息する様子が確認された。

表 2.3.11 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ハクセキレイ	留鳥	6	4	6	6	22
2	セグロセキレイ	留鳥	1	0	0	0	1
3	タヒバリ	冬鳥	0	0	0	1	1

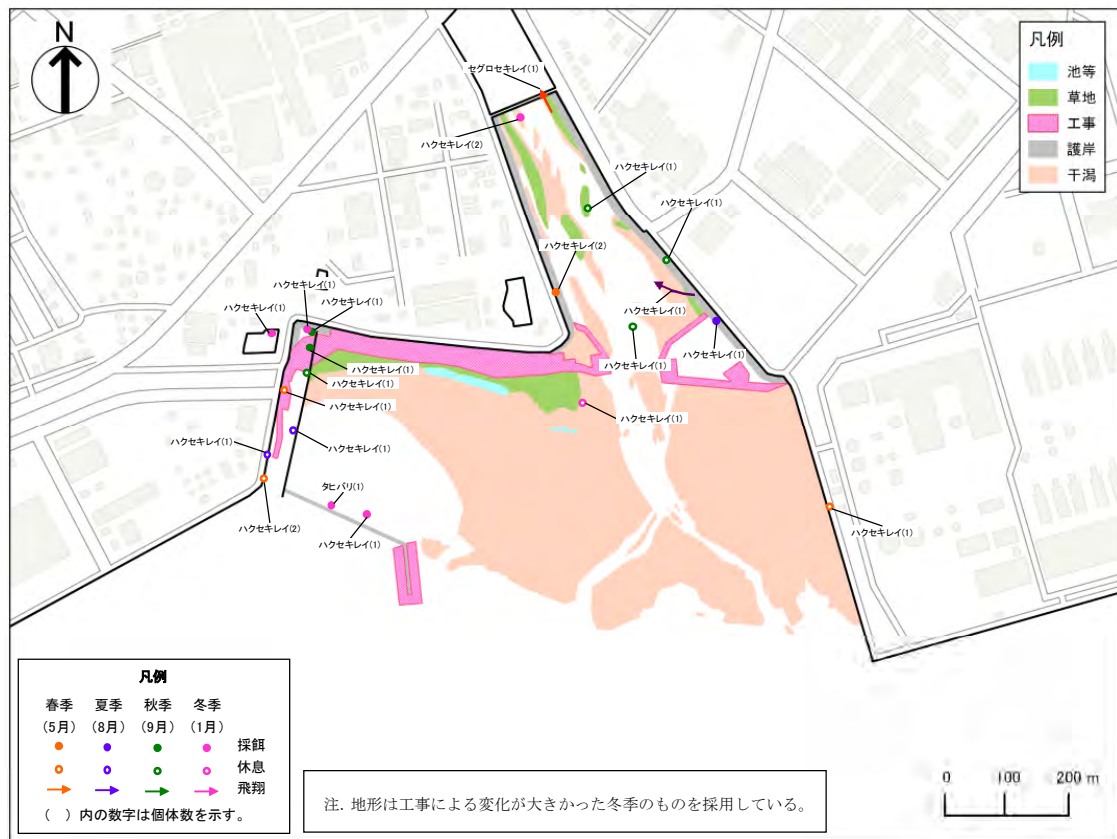
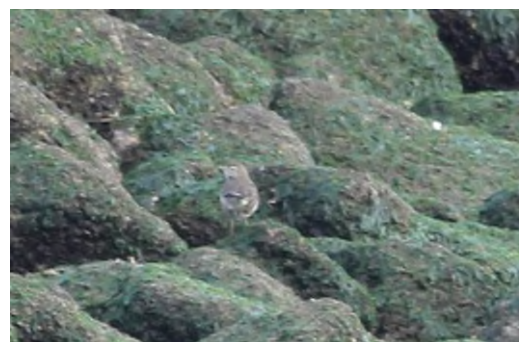


図 2.3.9 セキレイ類の出現状況



ハクセキレイ (9月)



タヒバリ (1月)

8) ハシボソガラス

ハシボソガラスは、四季をとおして確認された。

ハシボソガラスの多くの個体が干潟部に集まり、潮干狩りで掘り起こされた場所等で採餌している様子が確認された。

表 2.3.12 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H26年度）				合計
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	
1	ハシボソガラス	留鳥	59	91	50	12	212

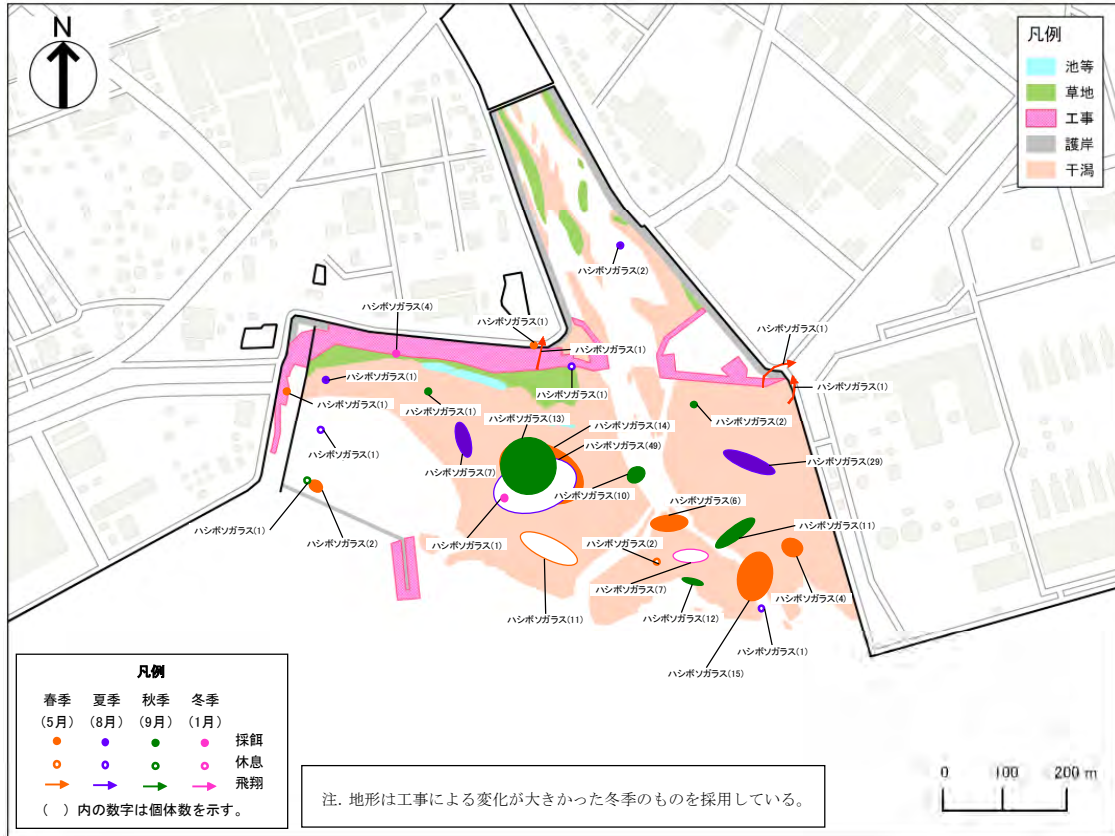


図 2.3.10 ハシボソガラスの出現状況



ハシボソガラス (5月)



ハシボソガラス (8月)

2.3.5 重要種確認状況

重要種の確認状況を表 2.3.13 に示す。

平成 26 年度調査において確認された重要種は、チュウサギ、クロサギ、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリ、ミヤコドリ、ハマシギ、ウミネコ、コアジサシ、ミサゴ、ハヤブサ、エゾムシクイ及びセッカの 13 種であった。

各種の写真を次頁以降に示す（エゾムシクイは写真なし）。なお、各種の生態等は資料編に示す。

表 2.3.13 重要種の確認状況

No.	目	科	種名	注1 渡り区分	確認状況				注2 天然	注3 希少	注4 環境省 RDB	注5 三重県 RL	注6 近畿RDB
					春季	夏季	秋季	冬季					
1	ペリカン目	サギ科	チュウサギ	留鳥			1				VU	ランク1 (夏期滞在個体群)	
2			クロサギ	留鳥			1				NT	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
3	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	留鳥	1	1	3	1			VU		
4			コチドリ	夏鳥	2						NT	ランク3 (繁殖個体群)	
5			シロチドリ	留鳥	2		10	35		VU	CR[繁殖] NT[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
6		ミヤコドリ科	ミヤコドリ	冬鳥				44			NT		
7		シギ科	ハマシギ	冬鳥				17			NT		
8		カモメ科	ウミネコ	留鳥	1	364	1678	35				要注目種 (繁殖個体群) 注7	
9			コアジサシ	夏鳥	12				II	VU	CR	ランク2 (繁殖個体群)	
10	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥		1	2	1			NT	NT[繁殖] VU[越冬]	
11	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥		1			I	VU	CR[繁殖] EN[越冬]	ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
12	スズメ目	ムシクイ科	エゾムシクイ	夏鳥	1							ランク3 (夏季滞在個体群)	
13		セッカ科	セッカ	留鳥	2	1	1					ランク3 (繁殖+越冬個体群)	
	5目	9科	13種		7種	5種	7種	6種	0種	2種	6種	9種	

種名および配列は「日本鳥類目録 改訂第7版 (日本鳥学会, 2012)」に準じた。

注1: 渡りの区分は以下のとおりである

(渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生息に関する調査報告書 (農林水産部林業事務局緑化推進課, 1987年3月)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した)

留鳥: 一年中見ることが出来る種 ----- 8 種

夏鳥: 繁殖のために渡来する種 ----- 3 種

冬鳥: 越冬のために渡来する種 ----- 2 種

注2: 「文化財保護法」(1950年5月30日法律第214号・1950年8月施行)により地域を定めずに天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

注3: 「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種を示す。

I: 国内希少野生動物種

II: 国際希少野生動物種

注4: 「レッドデータブック 2014、2 鳥類」(環境省, 2014)に記載されている種及び亜種を示す。

VU: 絶滅危惧11類: 絶滅の危機が増大している種

NT: 準絶滅危惧: 現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

注5: 「三重県レッドリスト (2014年度版) について」(三重県農林水産部みどり共生推進課, 2014年7月2日)に記載されている種及び亜種を示す。

CR: 絶滅危惧1A類: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

EN: 絶滅危惧1B類: 1A類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

VU: 絶滅危惧種: 絶滅の危機が増大している種。

NT: 準絶滅危惧種 (Near Threatened): 存続基盤が脆弱な種。

注6: 「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発 (京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著, 2002年)」に記載されている種を示す。

(記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した)

ランク1: 危機的絶滅危惧。絶滅する可能性がきわめて大きい。

ランク2: 絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。

ランク3: 準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。

要注目種: 要注目種: ランク4と判定された種のうち、何らかの擾乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

注7: 三重県においては「越冬個体群 (ランク4)」とされている。



チュウサギ (9月)



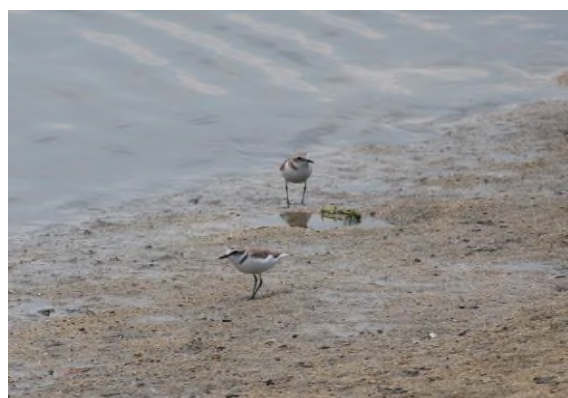
クロサギ (9月)



イカルチドリ (5月)



コチドリ (5月)



シロチドリ (5月)



ミヤコドリ (1月)



ハマシギ (1月)



ウミネコ (9月)



コアジサシ (5月)



ミサゴ (9月)



ハヤブサ (8月)



セッカ (9月)

注. セッカについては平成 24 年度調査時の写真を掲載している。